

## 「学習の3段階理論」

—授業中の「理解」のポイント—

開倫塾

塾長 林明夫

「学習の3段階理論」とは

Q : ところで「学習の3段階理論」とは何ですか。

A : (林明夫 : 以下省略)勉強には3つの段階、つまり①「理解」、②「定着」、③「応用」の段階があり、一つ一つの段階にあった勉強の方法をすれば必ず成果が上がるという考え方です。

「理解」とは

Q : 「理解」とは何ですか。(「理解」の「定義(ことばの意味)」)

A : 「うんなるほど」とよくわかること。腑(ふ)に落ちることです。「理解」は学校や開倫塾などでの「授業」と、自宅などでの「自習」で可能となります。

Q : 「授業」での「理解」はどのようにすればよいのですか。「授業」を受けるときの大切なポイントも教えて下さい。

A : まずは次の2つの図をよくお読み下さい。

**A** どのように授業を受けたら「理解」が深まるか

- (1) 今日の授業で何を学ぶのか目的を知る。
- (2) 授業では、両手を机の上に置き、先生の目を見ながら真剣に聴く。
- (3) 教科書に書かれていないことはメモを取る。
- (4) よく分からない点はないか、常に確認しながら授業を聴く。
- (5) 教科書とノートをよく読む。

**B** 「授業」を受けるときの「大切なポイント」

- (1) 遅刻、欠席、早退をしない。
- (2) おしゃべりや居眠り、携帯電話に手を触れたりせず、授業に集中する。
- (3) 教科書やノートブック、筆記用具などの忘れ物をしない。
- (4) 後で見やすいように、整理しやすいように、メモを取る。
- (5) 疑問点(よく分からないこと)はその場で先生に質問する(分からないまま帰宅しない)。
- (6) 授業の復習はその日のうちにする。

Q : (1)「今日の授業で何を学ぶのか目的を知る」とは、どういうことですか。

A : 「教育成果」つまり勉強してよい結果を得るのにとっても大切なことは「本人の自覚」。今日、これからの授業で何を学ぶのか、授業を受けてどのようなことがわかったりできるようになるか、先生が授業の始まりに示してくださる今日の目的、ねらいをしっかりと知り、認識すること。

本日の授業の「目的」や「ねらい」を聴きのがさず、メモを取ること。

Q：(2)「授業では、両手を机の上に置き、先生の目を見ながら真剣に聴く。」とは、どういうことですか。

A：先生は、毎時間、毎時間、授業の「目的」や「ねらい」を達成するために、今までの経験や先生として勉強したことを綿密な計画を立てて、授業に臨みます。まずはじめに、今までの授業や前回の授業の大切なことを復習してから、授業の「目的」や「ねらい」を伝える。そのあと、どのような「順序」(プロセス)で授業を作り上げて、「目的」や「ねらい」を達成しようかと、毎時間ごとに「教案(Lesson Plan、レッスンプラン)」を書き上げてから授業に臨みます。

教える側の先生にとって、授業は真剣勝負ですから、教わる側の塾生の皆様も、真剣勝負の気持ちで授業に臨んで下さい。

ですから、授業を受けるときの態度としては、背筋をピンと伸ばし、両手は机の上に置き、先生の目をしっかり見て、先生の一語一語を真剣に聴くとよいでしょう。一言も聴きもらさないぞという気構えで授業を受けること。

Q：Bの(1)「遅刻、欠席、早退をしないこと」、(2)「おしゃべりや居眠り、携帯電話に手を触れたりせず、授業に集中する」と関係がありそうですね。

A：はい。

「遅刻」、「欠席」、「早退」、「おしゃべり」、「居眠り」、「携帯電話」などは、なぜ避けた方がよいかといえば、授業中に「うん、なるほどよくわかること」「腑(ふ)に落ちること」つまり「理解」をする妨げになるからです。

切角、先生が万全の準備をして最高の授業をしようと意気込んで教室に来られても、そこに教わる人が存在しなかったり、存在してもただそこに居るだけで、眠っていたり、耳を傾けていなかったら何の成果も出ません。

特に「おしゃべり」は、他の人が先生の言葉を聞き取る上での妨げとなりますから、絶対避けるべきです。「居眠り」も授業の雰囲気著しく壊すものです。授業中に「居眠り」が出ないように自分をコントロールし「自律」ある生活を心掛けて下さい。授業中に「携帯電話に手を触れること」は論外。学校や開倫塾にいる間は電源を切っておくべきです。小学生や中学生、高校生に生命や一時を争う緊急事態は考えられませんのでマナーモードも許されるものではありません。

Q：(3)「教科書に書かれていないことはメモを取る。」とは、どういうことですか。

A：教科書に書いてあることを先生が説明して下さってる間は、両手を机の上に置いて先生の目を見て真剣に先生のおっしゃることを聴いて下さい。

但(ただ)し、教科書に書かれていないことで大切と思われることをお話しになった場合には、教科書またはノートブックにメモをして下さい。

メモは原則としてはノートブックにするものですが、教科書にメモしておいた方があとで勉強するとき便利と考えた場合には、教科書にシャープペンか鉛筆で小さい文字でメモを残しておくこともお考え下さい。どのようなことを教科書にメモするか、自分自身のきまり、ルールを予め考えておくとその場で迷わなくて済みます。シャープペンか鉛筆でのメモなら、後でノートブックに書き写した後、消し去ることも出来ます。(ノートブックの整理も大事なのです)

Q : この[A]の(3)「教科書に書かれていないことはメモを取る」は、[B]の「授ぎよを受けるときの大切なポイント」の(3)「教科書やノートブック、筆記用具などの忘れ物をしない」(4)「後で見やすいようにメモを取る」と関係がありそうですね。

A : はい、その通りです。授業は「教科書」や先生がおつくりになった「教材(プリント)」を使って行われる場合がほとんどですから、「教科書」や「教材(プリント)」を忘れることは許されません。ごくまれに、先生が教科書やプリントを一切お使いにならず、「黒板」を使って授業したり、黒板も使わずに授業する場合がありますが、この場合もノートブックは必要不可欠です。

教科書や教材(プリント)、ノートブックにメモをするための「筆記用具」も授業に忘れることは許されません。

科目によってはこの他「辞書」や「資料集」、「楽器」や「体育着」など授業に必要不可欠の「物」を忘れることも絶対に避けるべきです。

「忘れ物」は、武士が勝負をするのに武器を忘れたのと同じです。忘れ物は授業を「欠席」「遅刻」「早退」と同じくらい「理解」の妨げになります。

夜、寝る前までに必ず明日の授業に必要なものを準備する習慣を早く身に付けることをお勧めします。

Q : 「忘れ物」をしないためにはどうしたらよいのですか。

A : 次の4つのことを確実にやってみたら「忘れ物」は少なくなります。

- ①勉強に関連するものの整理・整頓をいつもすること。
- ②カバンの中に入れるものや、入れる位置を工夫し、利用しやすいようにすること。
- ③自分の本やものを置く位置を家でも決めておくこと。
- ④忘れ物をしないためのチェックリストをつくり、番号順に、声を出しながら「指さし確認」をマイニチすること。

この①～④は社会にでてからも一生に渡って役に立ちます。特に③の「本や自分のものを置く位置を家でも決めておく」ことは、絶対オススメです。(今からこの能力を身につけておくと、どこに何を置いたかわからなくて、いつも捜し物をしている大人にならなくても済みます。)

Q : 「忘れ物」をしないことが、授業を受ける上で大切なことはよくわかりました。次の[B]の(4)「あとで見やすいようにメモを取る」とはどういうことですか。

A : 「メモは何のために取るか」といえば、「授業のあとで勉強し直すため」です。「授業のあとで勉強し直すため」に教科書の中やノートブックにメモを取るのであれば、「あとで見やすいようにメモを取る」ことをオススメせざるを得ません。

Q : えっ、「あとで勉強し直すためにメモを取る」ですって。考えたこともありませんでした。なるほど。言われればそうですね。

A : これは言いにくいことですが、多くの人が知っていることなので、この際はっきりと言いますが、成績がよい人にはよく授業中や人から聴いたこと、自分で勉強したことのメモを教科書やノートブックにあとで見やすいように取り、あとでそれを整理し、自分自身のノートブックを作り上げ、それをもとに勉強する人が多いようです。

私は「ノート」に「ノートブック」とわざわざ「ブック」を付け加えて言い表しています。ノートはあとで自分で整理して一冊の自分の勉強のための本として末永く使うものだと考えているからです。「マイ・ノートブック」の「ノート」をとって「マイ・ブック」に変身させることを目標にいつまでも使うことに耐えられるよい「メモ」を取り、その整理をして下さい。

Q：授業中に「教科書」や「ノートブック」に取った「メモ」をあとで整理してそれを勉強し直すことが成績向上の秘訣なわけですね。そのために、(4)「あとで見やすいように、整理しやすいように授業中メモを取る」のですね。

A：その通りです。よくわかってもらえて、私はとても嬉しいです。

Q：Bの授業を受けるときの「大切なポイント」の最後のB(5)「疑問点(よくわからないところ)はその場で先生に質問する(わからないまま帰宅しない)」は、A「どのように授業を受けたら理解が深まるか」の(4)「よく分からない点はないか、常に確認しながら授業を聴く」と深く関係するのですね。

A：はい。1回1回の授業にはそれぞれ「目的」や「ねらい」があり、その「目的」や「ねらい」をよくわかってもらい、身につけてもらうために先生は授業をなさいます。

ですから、授業中は「よくわからない点はないか、常に確認しながら授業を聴くこと」が欠かせません。つまり、何がわかっていて、何がわかっていないかを常に自分でふりいにかけてながら授業を聴くこと。ただ漫然(まんぜん)と先生の話の聴いてはいけません。ということです。もし、わからないことがあれば必ずノートブックや教科書に何がわからないかをメモして、授業の間、ずっと考えましょう。授業が進むに従ってだんだん分かってくる場合も多いですが、それでもよく分からなければ、「疑問点(よくわからないところ)は、その場で(つまり授業中の適当なときに)先生に質問をすること。」授業中に質問ができない場合には、授業後に質問すること。「わからないまま帰宅しないこと」が大切です。

真剣に授業を聴き、その結果わからないことを質問した場合ほど、先生にとって嬉しいことはありません。

よく考えた上での質問は、クラスの知的レベルを大幅に上昇させ、クラスみんなの知的好奇心を向上させ「やる気」にさせますので、先生は大歓迎です。

先生の授業の進行を妨げない範囲で積極的に質問して下さい。

Q：「うんなるほどよくわかる」という意味での「理解」を深めるには、Aの最後の(5)「教科書とノートをよく読む」と、そのポイントのB(6)「授業の復習はその日のうちにする」は欠かせないのですね。

A：その通りです。その日の授業中だけではなく授業が終了したあとも、教科書とノートブックをよく読むと「理解」が深まります。

授業をもう一度よく思い出しながら、時間をかけ教科書とノートの一語一句をかみしめて読み直しましょう。ノートブックもあとで見やすいように必要な語句をつけ加えたり、段落や句読点をつけ加えたりしながら整理をしてみましょう。これが、その日のうちにする復習です。このような形で授業の復習は、たとえ5分でもよいからその日のうちにすること。

以上でシリーズ第2回目の授業中の「理解」のすすめ方の話はおしまいです。

**Q : ありがとうございます。次回の予告をお願いします。**

A : 次回(第3回)は授業以外での「理解」のすすめ方、つまり自分一人で勉強して「うんなるほど」と「理解」するにはどうしたらよいか。「自習」の仕方を御説明します。今日はこれまで。

— 1月4日記 —